

国語教育相談室

小学校
no.
70

光村図書



特集 国語力を伸ばす

鼎談
内田伸子
阿部昇
輿水かおり

平成23年度版
教科書のご案内



赤木かん子の
**読書力アップ!
学校図書館の
作り方** (CDつき)
赤木かん子 著

本の内容

- ① たった一人でもできること
- ② 分類と配置
- ③ 部屋全体を使いやすい図書館に
- ④ お悩み解決!! エリア別の工夫
- ⑤ Q & A コーナー

定価 2520 円 (本体 2400 円)
B5 判・並製・128p ISBN978-4-89528-475-2
2010年4月30日発売予定

光村図書 小学校 国語教育相談室 通巻No.133 2010(平成22)年4月23日発行 定価126円(税込)
発行人=常田 寛 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
http://www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所=協和オフセット印刷株式会社 デザイン=mint grafix 撮影=高宮青志

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
http://www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

人間だから

入ってから、縁があって同誌編集部を訪ねるようになった。この雑誌の名物編集長が長井勝一さんだった。彼は、いつでも温かく迎えてくれるので、それに甘えて入りびたるようになった。編集部
の片隅で、長井さんの仕事ぶりを眺めていて、そこから多くのことを学んだ。だから、彼は、僕に
とって編集という仕事の師匠にあたる存在なのだ。

長井さんは、マンガ文化隆盛の礎を築いた功労者だが、その人生は波乱に富んでいた。戦後、貸
本マンガ出版をはじめ、白土三平との運命的な出会いもあり、会社も順調にいった矢先、結核
に倒れる。そして、最も病状が重いつき、医者から「眉間にタテジワがあると治らない」と言われ、
シワのばしにとセロテープを貼ってみた。医者は大笑いし、「大丈夫、君は死なないよ」と言った
という。入院中に、前代未聞のマンガ誌「ガロ」を創刊、学生中心に熱狂的に支持される。しかし、
大手がマンガ出版に本格的に参入してくると、小出版社ならではの経営の苦しさに悩まされた。

そういう長井さんの口ぐせが、「人間だから」だった。この言葉には、人間の弱さ、駄目さを知
りつくしてなお、「人間って面白いよ」と語りかけてくる優しさがある。修羅場をくぐり抜けてき
た人ならではの突き抜けた明るさとほけた味わいがしみじみと伝わってきた。

日頃は脳天気な僕だが、それでも本作りや人間関係で行き詰まることもある。そういうとき、そっ
と「人間だから」とつぶやいてみる。すると、長井さんの人なつこい笑顔が目の前に浮かび、少
し気が楽になる。気がつくくと、歳だけは重なってきた僕だが、それなりに編集の業は身についたと
思う。でも、なかなか師匠である長井さんの「人間だから」の境地に達することはできそうにない。

編集という仕事に就いて四十年、四百冊以上の
本を世の中に送り出してきた。振り返ってみると、
まさに天職とも言うべきこの稼業に足を踏み入れ
るきっかけとなったのは、高校三年生のとき、教
室で拾った一冊のマンガ誌だった。「ガロ」とい
う奇妙なタイトルの雑誌にたちまち魅了され、大学に



1947年東京都生まれ。編集者、ブックコメンテーター。学生時代に「ガロ」編集部でマンガ編集を学び、70年に筑摩書房入社。「ちくま文庫」「ちくま文学の森」「ちくまプリマー新書」を企画創刊。赤瀬川原平「老人力」など数々のベストセラーを生み出す。96年よりTBS系のテレビ番組「王様のランチ」に出版コーナーのコメンテーターとして出演、話題となる。筑摩書房顧問。主な著書に『印刷に恋して』『本』に恋して、『編集狂時代』など。

CONTENTS

わたしとことば 人間だから ————— 松田哲夫

特集 02 国語力を伸ばす

鼎談 ————— 内田伸子・阿部 昇・興水かおり

12 新版教科書クローズアップ「説明文二教材構成」

実践報告「イルカのねむり方」「ありの行列」 ————— 熊谷 尚

18 作者・筆者からのメッセージ

「ゆうだち」(一年上) ————— 森山 京

「海をかつとばせ」(三年上) ————— 山下明生

「生き物は円柱形」(五年) ————— 本川達雄

教師力講座 9 24 漢字指導を楽しく！継続的に！ ————— 安田恭子

きれい・関心・繰り返しの「3K」 ————— 吉永幸司

書写の時間を
考えよう
特別編 28 新版教科書のご案内

古典って楽しい！ 32 第一回 竹取物語 ————— 青山由紀

作・画／吉永直子

国語力を伸ばす

平成23年度版教科書のご案内

今、求められる「国語力」とは何でしょうか。
その力をつけさせるために、
新しい教科書にはどのような工夫がなされているのでしょうか。
光村図書教科書編集にたずさわった三人の先生方に
語り合っていただきました。

鼎談

内田伸子

(お茶の水女子大学 教授)

阿部昇

(秋田大学 教授)

興水かおり

(港区立青南小学校 校長)

今、求められる「国語力」

興水 一口に「国語力」と言っても、さまざまな力が考えられますが、先生方が、今の子どもたちに身につけさせたい「国語力」とは何でしょうか。

内田 PISA調査(※1)では、論証・論述問題に白紙解答が多いという日本の子どもたちの実態が明らかになりました。国語力・学習状況調査でも同様の結果が出ていますので、論証し論述する力を、小学校段階からきちんと身につけさせたいですね。そのためには、「話す・聞く・読む・書く」といった活動を、批評的に行う必要があると思っています。

阿部 文章や作品の「よい点はここだ」「わかりにくい点はここだ」、こうしたらもっとよくなる」と批評することはとても大事で、

そういった「評価する力」が日本の子どもたちはとても弱かったように思います。

内田 阿部先生は、お茶の水女子大学のCOEプログラムで、国語学力検査(※2)の責任者を務めていらっしゃいますね。その結果をご紹介いただけますか。

阿部 おおまかに言えば、PISA調査とほぼ同様の結果が出ました。文章の書かれ方や工夫を、文章から少し離れて把握する「メタ(※3)的に読む力」や、文章の構造や構成を考えながら読んだり理解したりする「俯瞰的に読む力」が弱い。私はそこをきちんと身につけさせたいです。

興水 PISAは義務教育の指導を終えた段階の調査ですよ。ですから、私はそこに行き着くまでに、小学校で何ができるだろうと考えています。内田先生がおっしゃる論証し論述する力をつけさせるために、小学校低学年から、言葉から想像する力や

感じる力を掘り起こしたいと思っています。

阿部 その力をつけるために、物語でいえば、作品に浸ることが大事でしょう。ただし、作品に浸りつつ、少し離れて作品を見たり、角度を変えて想像したり、評価したりすることも大事。先ほど「メタ的に読む力」と言いましたが、作品に浸りながら少し離れてみる、また、「俯瞰的に読む力」ということでは、部分を大事にしながら作品全体を見渡してみる、そういう指導がこれからは求められると思います。

内田 それによって、子どもたちは作品や文章をもっと豊かに感じたり想像したりすることができるといいですね。

興水 今、映像の文化が隆盛を極めていますが、子どもたちのまわりには映像があふれていて、映像から受けるイメージで物事を考えることは多いけれど、言語からイメージをふくらませて考えることが少

うちだのぶこ

内田伸子

群馬県生まれ。お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授。学術博士。専門は発達心理学、認知心理学。お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」の拠点リーダー、日本学会協議会議員はじめ、政府・学会関係の要職を務める。著書に、『発達心理学—ことばの獲得と教育』（岩波書店）、『幼児心理学への招待—子どもの世界づくり』（サイエンス社）など。



論述し論証する力を

きちんと身につけさせたいですね。

※3 メタ(meta) [超えて][高次の]などの意。「メタ言語」「メタ認知」のように、接頭語的に用いられる。

※2 お茶の水女子大学COEプログラムで行った国語学力検査 文部科学省21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」のプロジェクトの一環として、小3・小6・中3・高3を対象に2003年から大規模な学力検査を行っている。その中の国語学力検査。認識力、思考力、判断力などを重視している。

※1 PISA調査 OECD(経済協力開発機構)が2000年から3年ごとに行っている。義務教育修了段階の15歳の生徒を対象にした学習到達度調査。

阿部 昇

東京都生まれ。秋田大学教育文化学部教授、秋田大学教育文化学部附属小学校校長。専門は国語教育学。全国大学国語教育学会理事、日本NIE学会理事、日本教育方法学会常任理事、お茶の水女子大学COEプログラム国語学力検査責任者、秋田県検証改善委員会委員長。著書に『文章吟味力を鍛える—教科書・メディア・総合の吟味』『授業づくりのための「説明的文章教材」の徹底批判』(以上、明治図書)など。



「ぜひ説明文をご覧ください」と力説したいです。

なくなってきた感じがします。ですから、その力を国語の授業のなかで養っていききたいですね。

さらに充実した説明文

内田 今回、編集委員として、新しい教科書の編集にそれぞれたずさわりました。今お話したような力がつけられるよう、さまざまな試みができたんじゃないでしょうか。

阿部 私は特に、説明文にかかりました。光村の国語教科書は「文学作品が優れている」という印象をおもちの先生が多いと思います。もちろん文学作品もすばらしいのですが、今回の教科書では、「ぜひ説明文をご覧ください」と力説したいです(笑)。

内田 すぐれた教材がたくさん入りましたよね。「説明文二教材構成」(p.12-13参照)

するという論説文が位置づけられたというのは、とてもいいことです。

奥水 六年に掲載される『鳥獣戯画』を読む」も、そういう説明文といえるでしょうか。

阿部 ええ。アニメーション映画監督の高畑勲さんの文章ですが、「自分は鳥獣戯画をこう見る」と、自分の見方を述べた後に「今度は君たちが考える番だ」と投げかけていますね。

内田 今までは、「答えが一つあって、答えに至る道も一本」という収束的な思考、すなわち暗記能力に偏りがちでした。しかし、これからは拡散的な思考を身につけなければならないと思います。

奥水 答えは複数あるし、答えに至る道も複数あるということですね。

阿部 また、多くの手引きには、「筆者はこう言っているけど、あなたはこう思うの？」という問いが含まれています。文章を評価したり吟味したりする内容がきちんと位置づけられています。

内田 それから、説明文は低学年もいいんですよ。例えば「どうぶつの赤ちゃん」今まではライオンとしましまの赤ちゃんの説明だけでしたが、今回はその後カンガルーの赤ちゃんの説明が入りました。

も新しい試みでしょう。

奥水 昔の教科書にはあったのですが、授業時数の削減とともになくなってしまうんです。現場のニーズが反映されて、今回再び取り上げられました。

内田 三年から六年の上巻に位置づけられていますね。

阿部 例えば、三年では「イルカのねむり方」と「ありの行列」の二教材がセットになっっています(p.15参照)。最初に「イルカのねむり方」という短い説明文を読み、構成や問いと答えの関係などをつかんでから、「ありの行列」の学習へ入ると俯瞰的な読みがスムーズにできるようになります。

内田 「イルカ」と「あり」というように、どちらも生き物が題材で、二教材が関連のある題材で構成されているのもいいですね。

阿部 五年では、「見立てる」と「生き物は円柱形」(p.22-23参照)がセットになっ

阿部 「ライオンやしましまの赤ちゃんとくらべましょう。どんなところがちがいますか。どんなところがにていますか」と投げかけてから、カンガルーの赤ちゃんの文章を読ませる。一年生からメタ的な読みをさせているんですね。

ていて、これも題材が関連しています。「生き物は円柱形」は、生物学者・本川達雄さんの文章で、仮説的な要素が入っているとおもしろい論説文です。

奥水 本文のなかで「仮に、生き物の基本が円柱形だとすると、それには理由があるにちがいない。円柱形だと、どんないいことがあるのだろう」と、問いかけていますね。

内田 仮説的な説明文を学ぶことはとても大事なことです。科学的な理論は、「至論」ではなく、「試論」です。答えは一つではないし、いろいろな可能性がある。知の探究者になるために、小学生の頃から仮説的な文章にふれてほしいですね。

阿部 今までの日本の国語教科書を見ても、すでに明らかになっている事柄について説明するという説明文が多かったように思います。ですから、人によって見解が分かれる事柄について自分の意見を主張

「どうぶつの赤ちゃん」(一年下)



こしみず
輿水かおり

広島県生まれ。東京都港区立青南小学校校長。23年の教員生活を経て港区教育委員会指導主事、東京都教育相談センター統括指導主事、東京都教育庁主任指導主事を務める。2006年より現職。「言葉の力」やコミュニケーション能力の育成、国語科の実践的な研究に取り組む。編著書に「イラスト版 こころのコミュニケーション—子どもとマスターする49の話の聞き方・伝え方」(合同出版)など。



新しい教科書は「らせん階段」。
国語の力が確かになっていく階段です。

は、新学期に教科書をもらうと、どんだん先を読みますよ。

輿水 また、一年間の学習が見通せるように、巻頭に「学習の見通しをもと」というページを見開きで入っているのもいいですね。これは、各単元に入っている「たいせつ」(※4)を、各領域ごとに表にしたものです。中学年までは巻末に位置づけられています。高学年は巻頭に位置づけ、一年間の学習の見通しをもたせる。子どもの発達段階に合わせているんです。

阿部 今までの国語の授業では、学習を振り返ることは少なかったように思うのです。算数の授業では、分数のわり算を勉強する前に、分数のかけ算を必ず振り返りますよね。国語でも、そのような振り返らせる場面を意図的につくっていくべきだと思っています。前に学習したことを活かして、新しい単元を学ぶ。それが、活用力を付ける

ということにもつながると思います。
内田 そして先生がそのような場面を積極的につくっていくことで、子どもも自主的に前の学習を振り返るようになるのでしょうか。

らせん的に学習を積み重ねる

輿水 新しい教科書では、今まで以上に系統的に単元・教材が配置されていて、振り返りがしやすいです。それは大きな特長ですね。
阿部 そうですね。例えば三年生だと「あの行列」で、「はじめ・中・おわり」という構成を学習します。このときの「はじめ」は「問い」の形になっています。その後に出てくる「すがたをかえる大豆」も同じ構成ですが、「はじめ」は「問い」になっていない。「いろいろ手をくわえて、おいしく食べるくふうをしました」と提示型の「はじめ」になっている。そこで、自分で「問い」をつ

くってみるという学習をします。このように、少しずつバリエーションを変えて系統立てて配列されているのです。前に学んだことを生かしつつ、新しいことを学習できるように、うまくかけられていると思います。
輿水 そして、学年のなかだけでなく、六年間で各領域できちんと系統立てて教材が配列されています。

内田 教材の配列はぜひぶん気配りがされていますよね。発達というのは、まっすぐな階段をのぼるように進むと思われがちですが、そうではありません。らせん階段をぐるぐるのぼるように、歩いてきた道を振り返りながら、行きつ戻りつしながら進むのです。
輿水 新しい教科書はまさに、らせん階段ですね。そのらせん階段をのぼると、国語の力が確かになっていく、生きて働く力になっていくのですね。

阿部 学習指導要領解説 国語科編には「国

※4 「たいせつ」
光村図書国語教科書の手引きに位置づけられている。その学習でどんな国語の力を身につければよいかを示したもの。

一年間の学習のイメージ (三年を例に)

※「読む(説明文)」は詳細を示した。





語科の指導内容は、系統的・段階的^{ちせんとく}に上の学年につながるべくとも、螺旋的^{らせん}・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図る」とありますが、それにきちんと答えられた教科書であると自負しています。

「対話」や理由を話す学習 入門期

奥水 内田先生は発達心理学がご専門で、入門期の編集に深くかかわっていらっしゃいましたね。

内田 今回、入門期に「対話」の場面を多く位置づけました。学習指導要領でも「交流」が一つのキーワードになっていますが、やはり交流を通して「知」をいっしょにつくっていきたいと思っています。

阿部 例えば「なんて いったら いいのかな」では、どんな授業が考えられるでしょうか。

もにとつては難しいですからね。

内田 それができるようになるのが五歳後半ぐらいからなので、入門期に入れました。ここで大事ななのは、「どうしてか」という表現だけではないんです。

奥水 思考の道筋ですね。

内田 そうです。私は広島県の検証改善委員会(※5)にかかわっているのですが、今回、そこでの検証結果をふまえて、入門期の教材を考えていきました。

阿部 どのような検証をされたのですか。

内田 広島県安芸高田市立向原小学校で、結論先行型で理由づけ・論拠づけの言語形式の訓練を行い、さらに対話的学習形態で、自分の考えをはっきりさせていくという「論理科」カリキュラム(※6)を開発しました。一年間「論理科」を受けた子どもと、受けなかった子どもに作文を書かせたのですが、「論理科」を受けている子は、論拠を示したり、簡潔で必要十分な説明ができたりする割合が高いのです。

奥水 それで入門期から、対話の場面や「どうしてか」という結論先行型の学習を取り入れていったのですか。

内田 入門期からそういう学習を積み上げて論理力を身につけてほしいと思っています。
阿部 入門期の授業というのは、これから



「なんて いったら いいのかな」(一年上)

内田 二人一組になって代わりばんこにお話をつくったり説明をふくらましていく。あるいは、四人ぐらゐのグループになってお話を考えたりして、想像をふくらませてみましょう。学級のなかの人間関係ができていないと、ここで豊かなお話はできません。ですから、クラスのなかで仲間がどれくらいできているかというバロメーターにもなるかもしれません。

奥水 それから、「わけをはなそう」という教材も新しく入りました。「どうしてか」というと」という表現をつかって、理由を説明するというものです。

内田 私が調査したデータによると、「だつてくだもん」という言い方は二歳後半から出てきます。しかし理由づけの言葉としてちゃんと使うには、時間概念を習得してからでないと思えないんです。

阿部 時間をさかのぼることは、幼い子ども



言葉を獲得する子どもたちに教える、とても楽しいものです。でも楽しいだけではだめで、理由を示して話したり、対話するなかで自分の考えに気づいたりさせなければいけない。新しい教科書では、それがうまく教材として組み込まれていて、上の学年の学習の伏線のような役割を担っていると思います。

新しい教科書に込める思い

阿部 新版教科書の特長を一通り話してきましたが、私は、こんなに「しかけ」にあふれた魅力的な教科書はこれまでになかったと思っています。

内田 前の学習を振り返ることができるしかけ、言語活動をスムーズに授業に取り込むことができるしかけ、子どもたちが主体的に学習できるしかけ、さまざまなか

「わけを はなそう」(一年上)



がありますね。

奥水 現場の立場から言いますと、国語が専門ではない教師が大勢いるなか、手引きの充実、言語活動の目標と活動の流れがはっきりしているなどの特徴はたいへんありがたいですね。子どもが理解して主体的に学べるのと同時に、教師も「ああ、こうやって進めればよいのか」と、この教科書からたくさんことを学べるはずですよ。

阿部 あとは、先生方がこれらのしかけをどう使ってくださいるかですね。

内田 私たちの思いはこの十冊の教科書にしっかりと実現することができました。これを実質化するのには、現場の先生方と子どもたちです。私は創られたのです。魂を込めるのは子どもたち、そして先生方です。ぜひこの教科書をお使いになって、使ってみてのご感想や子どもの学びについてのご報告をお寄せいただきたいですね。それこそ、私たちは楽しみにしています。



※6 「論理科」カリキュラム

結論先行型で根拠をあげて意見を述べさせる指導が言語力・論理力にどのような効果を与えるのか、向原小学校や広島県内の小学校の3年生・5年生を対象に一年間の実践が行われた。その結果、論理科教育を受けることで、因果的思考に効果がある、時系列を用いるのではない、因果律、可逆的操作ができることが検証された。

※5 検証改善委員会

全国学力・学習状況調査の結果等を活用・分析し、教育委員会や学校における効果的な取り組みや課題を明らかにし、改善につなげるため、都道府県・政令指定都市ごとに設置されている団体。

説明文 二教材構成

このコーナーでは、新版教科書の新しい試みをご紹介します。
今号では、「説明文二教材構成」をご紹介します!

習得

第一教材 「大きな力を出す」

段落の構成がとらえやすいよう、段落に①～⑤の番号をふっている。

見開き2ページの短い文章なので、全体の構成を俯瞰的にとらえることができる。

- ①の段落には、主に事実が書いてある。事実が、たしかめることができるんだ。
- ②の段落には、「からだです。」の「です」は、理由を表す言い方。なんの理由だろう。
- ③の段落にある「からです。」は、理由を表す言い方。なんの理由だろう。
- ④の段落には、①の段落と同じようなことが書いてあるね。

文章のはじめには、話題がしめされるんだよね。この文章の話題はなんだろう。

段落相互の関係、事実や説明と筆者の考えとの関係を考えながら読むなど、読み取りの観点を示している。

大きな力を出す

西嶋尚彦

① わたしたちは、ふだん、特に考えることもせずに呼吸をしています。でも、考えて呼吸をしようと、もっと体の力を引き出すことができます。

② 体のどこかを思い切り動かしてみよう。うてをふる、足をける、おす、ジャンプするなどです。このとき、「えいっ」「はっ」「うっ」など声を出した人はいませんか。それは、とてもせんなことです。テニスややり投げなどのスポーツでも、ボールを打つときややりを投げるときに、選手が大声でさけぶことがあります。

③ わたしたちの筋肉は、息をはずかすときに、いちばん大きな力を出すことができます。息をすおうとしているときや、息をすっているどちらうには、強い力を出せません。息を全部はき終わったときも、強い力を出せません。声を出すのは、それによってせんと息をはずかすことになからです。スポーツ選手は、そのことをよく知っているのて、大きな力を出すようにさけんでいるのです。

④ 何んかて力を合わせるときにも、息のしかたを考えることは大切す。ために、しずかに、だまってつな引きをしてみてください。次に、「せい」や「そうれ」と、かけ声をかけながらしてみよう。かけ声をかけたほうが力が出ることに気づくはずす。いっしょに声を出すことで、息をはずかすクイミングが合い、全員が同時に、いちばん強い力を出すことができます。

⑤ このように、一人で力を出すときも、人と力を合わせるときも、呼吸を意識することで、筋肉は、より大きな力を出すことができます。呼吸と筋肉は、深い関係があるのです。

2 読んで、自分の考えをまとめよう
それぞれの段落は、どのようにつながっているでしょう。事実や説明と筆者の考えとの関係を考えて読みましょう。

動いて、考えて、また動く

高野進

運動でも勉強でも、「まず動く、そして考える」ことが大切です。そうして何度も成功や失敗をくり返し、ながら工夫を重ねると、きつと、自分にとって最高のものを実現できます。

わたしは、かつて陸上四百メートル走の選手であり、今はコーチとして指導をしています。最高の走り方を目ざして取り組んできた長年の経験から、そのように考えるようになりました。

わたしが走り方を工夫し始めたきっかけは、高校生のとき、当時取り組んでいた走り方にももを感じたことでした。それは、「ひざを高く上げて」「あしを思い切り後ろにける」といって大きな動作で走るといふものです。そうすれば、速く走れるといわれていたのです。わたしは、毎日毎日この練習をくり返していました。けれども、この方法で四百メートルを走ると、苦しくて最後まで力がつかないのです。何かかがうのではないかと、なやみ始めました。

そこで、わたしは、少しでも楽に走れないものかと、べつの走り方をあれこれためしてみました。あるとき、「ひざを高く上げるような、大きな動作をせずに走ったらどうか」かと思いつきました。静かな果の記録会をためしてみると、予想をはるかに上回るすばらしい結果が出ました。このとき、必ずしも大きな動作で走るのがよいとはかき

陸上四百メートル走の選手として活躍した高野進は、この方法を身につけて、陸上四百メートル走の選手として活躍した。この方法を身につけて、陸上四百メートル走の選手として活躍した。

新版教科書では、三年以上の上巻に、説明文を二つ並べた単元を設置しました。

一 つ目の説明文(第一教材)は、見開き二ページの短いものです。この短い説明文を学習した後、二つ目の説明文(第二教材)を学習します。

例えば、四年上巻では、第一教材として「大きな力を出す」(西嶋尚彦著)、第二教材として「動いて、考えて、また動く」(高野進著)を配しました。

まず「大きな力を出す」を読んで、全体の構成や、説明文の読み取り・解釈の基礎的な知識を習得します。そして、第二教材「動いて、考えて、また動く」で、第一教材での学習を活用し、定着させます。

説明文の二教材構成は、習得→活用がスムーズに図れるよう工夫された単元なのです。第一教材と第二教材は扱う題材も文章構成も関連しています。例えば三年上巻では、第一教材が「イルカのねむり方」で、第二教材が「ありの行列」。どちらも生き物の生態に関する疑問を、実験・観察によって解き明かす文章です。第一教材を読んでから、第二教材を読むと、説明文の読み取りがスムーズになり、かつ題材への理解を深めることもできるのです。

「イルカのねむり方」「ありの行列」(三上)

秋田大学教育文化学部附属小学校教諭 熊谷 尚くまが い たかし

「二教材構成」のよさを生かす

「イルカのねむり方」と「ありの行列」はともに、〈はじめ〉〈中〉〈おわり〉の三部構成で書かれており、文章構成や論理の流れが似通っている。〈はじめ〉では、これから説明しようとする事柄が「問い」の形で提示され、〈中〉では、その「問い」を追究した過程が詳細に説明されている。論理の筋道は次の通り。

- 観察や実験を通して分かったこと
- ← それに基づく仮説
- 仮説を検証するための観察や実験
- ← その結果明らかになったこと

そして〈おわり〉では、「問い」に対する「答え」が述べられる。

同様の文章構成と論理の流れを取っている二教材がセットになっていること、よさ。一つ目の教材での学習を土台にして二つ目の教材での学習を展開し、発展させることができる点にある。「何が」「どのように」書かれているかを読み取ることで、その文章を読んで自分なりの感想をもつことがこの単元の学習内容だが、特に前者の内容について二教材構成のメリットを生かしていきたい。

すなわち、「イルカのねむり方」で三部構成のそれぞれの部分の役割や科学的な論理に沿った文章の書かれ方についてひと通り学んだ後、「ありの行列」では、それを「読みの指標」としながら、自分たちの力で文章構成をとらえたり要点をまとめたりしていく。

単元の構想

1 単元名

読んで、かんそうをまとめよう

2 単元の目標

○文末表現や指示語・接続語、繰り返し出てくる言葉などに着目しながら文章を読み、〈はじめ〉〈中〉〈おわり〉の三部構成をとらえるとともに、文章全体におけるそれぞれの部分の役割を考えることができる。

○一つの段落には一つの事柄が書かれていることの理解をもとに、段落のなかの中心となる語や文を見つけたり段落相互の関係を考えたりしながら文章を読み、要点をまとめることができる。

○文章を読んで何に引きつけられたかをはっきりさせて、感じたことや考えたことを書くことができる。

3 指導計画(10時間扱い)

次ねらい	主な学習活動
一 三部構成の説明文の書かれ方のよさをとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ありの行列」を読み、語句調べをするとともに、感想を交流する。 ● 〈はじめ〉と〈おわり〉をとらえ、それぞれの役割を考える。 ● 〈中〉の部分を、内容を考えながら二つに分ける。 ● 〈はじめ〉〈中〉〈おわり〉の小見出しをつけ、要点をまとめる。
二 説明文を読み、文章構成をとらえたり要点をまとめたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ● どちらかの視点で「ありの行列」の感想文を書き、お互いに読み合う。 ● a ありが行列をつくる ● b 科学者の行動や考え方を ● ほかの科学読みものを選んで読書する。
三 文章を読んで何に引きつけられたかをはっきりさせて、感想を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ● どちらかの視点で「ありの行列」の感想文を書き、お互いに読み合う。 ● a ありが行列をつくる ● b 科学者の行動や考え方を ● ほかの科学読みものを選んで読書する。

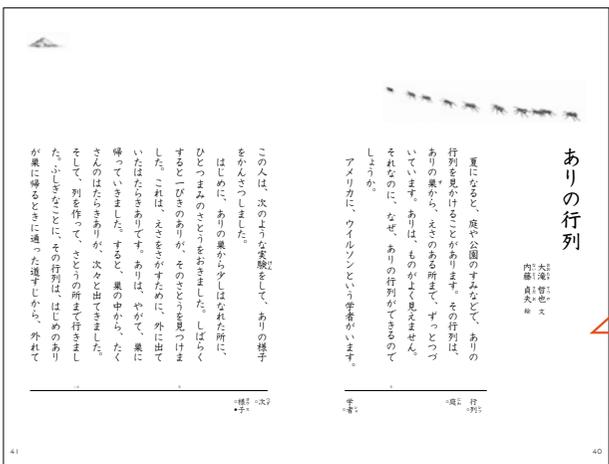
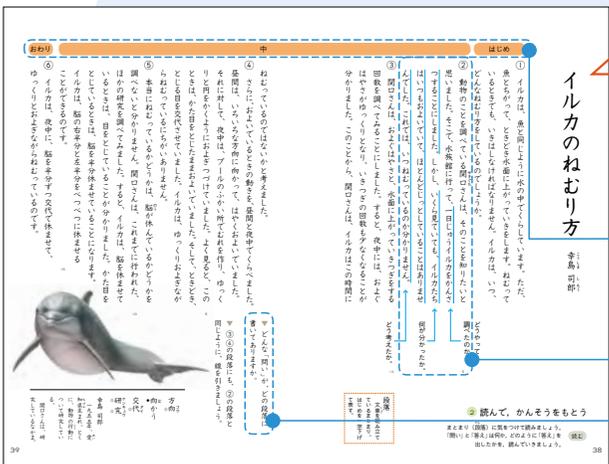
第一教材 「イルカのねむり方」

三部構成(はじめ・中・おわり)を視覚的にとらえやすいよう示している。

「実験・観察」「結果」「考察」にそれぞれ傍線を引き、3・4段落以降にも同じように線を引くよう指示を入れている。

「どんな『問い』が、どの段落に書いてありますか」と投げかけ、子どもに問いを見つけるよう促している。

第二教材 「ありの行列」



指導の実際

第2時「イルカのねむり方」

筆者の文章の書き方の
いい点を考えよう。

まず、前時にとらえた三部構成のそれぞれの部分の役割を確かめ、文末表現の違いにも注目させた。

〈はじめ〉 「問い」	〜でしようか。
〈中〉 「調べたこと」	〜を調べました。 〜が分かりました。 〜と考えました。 〜にちがいません。
〈おわり〉 「答え」	〜なのです。

さらに、文章の書き方についてどこが上手だと思うかを子どもたちに考えさせた。

- ・「問い」があるから「答え」を知りたくなって読みたくなる。
- ・筆者の予想が書いてあるから、それが当

〈はじめ〉 ①段落	②段落～⑧段落
〈中〉 ⑨段落	
〈おわり〉	

内容のまとまりを考えながら、
文章の区切りを見つけよう。

第4時では、全体を〈はじめ〉〈中〉〈おわり〉の三つに分け、「問い」と「答え」が対応していることを押さえた。

たっているかどうか気になって続きが読みたくなる。
・題名が興味を引きつける。

読み手を意識した書き方の工夫について、多数の意見が出た。さらに、ある子どもが「段落の変え方がうまい」と発言した。どの段落も「調べたこと」「分かったこと」「考えたこと」の順序で書いてあるから分かりやすいというのだ。

実験・観察→仮説→仮説の検証という科学的な論理の道筋に沿って文章が書き進められていることは「ありの行列」も同様である。第二次の「ありの行列」の読み取りにつながっていくよき気づきだった。

第4～5時「ありの行列」

A	②～④ / ⑤～⑧
B	②～⑤ / ⑥～⑧
C	②～⑥ / ⑦～⑧

第5時では、〈中〉の部分をもさらに区切るとすればどこで区切ったらいいかを考えた。まずは個々に自分の考えをもつ時間を十分に取った。その後、四人グループで意見を交換し合う。そして、全体での話し合いに移った。次のA・B・Cの3つの考えに意見が分かれ、活発な討論がなされた。

・ぼくは、Aだと思っています。④段落までは実験で「分かったこと」が書いてあるけれど、⑤段落にはウイルソンの疑問が書かれているからです。

・その疑問は観察したことから出てきた疑問なので、④段落と⑤段落はつなげた方がいいと思います。

・わたしはBだと思っています。そのわけは、⑤段落の「これら」は②段落から④段落に書いてあることを指しているからです。

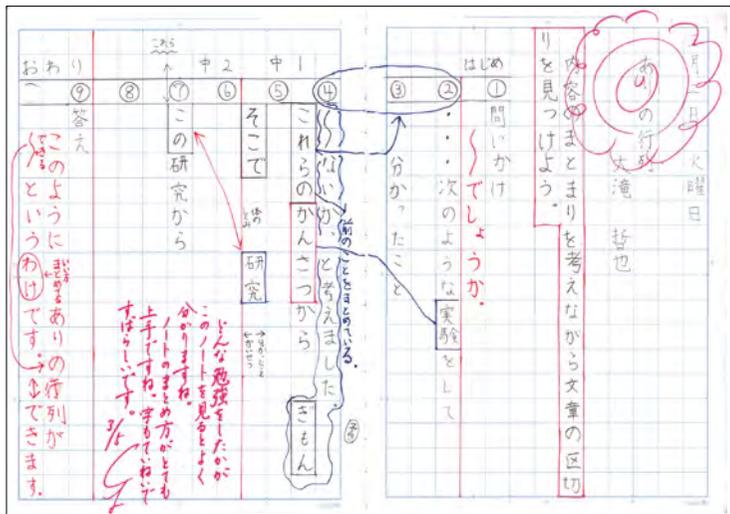
・ぼくはCだと思っています。なぜなら、⑦段落の「この研究」は⑥段落より前に書いてあること全部のこと、⑥段落まではどんな研究をしてきたかが書いて

あるけれど、⑦段落からは、ありの行列のできるわけを書いているからです。今の意見に反対です。⑦段落の「この研究」は、⑥段落の「体のしくみを細かく研究した」ことを指していると思

います。もし全部の研究を指すと思ったら、「これらの研究」という言い方になると思います。

・付け足して、⑥段落は体のしくみの「研究」で、⑤段落より前は、ありの様子の「かんさつ」なので、中身が違

うと思います。
・わたしは、やっぱりBだと思います。そのわけは、⑤段落の「〜と考えました。」というのは、観察して分かったことからウイルソンが予想したことで、それを確かめるために⑥段落から別の研究をしたことが書いてあるからです。⑤段落までで区切るのがいいと思います。



児童のノート (第5時)

板書をただ写すだけでなく、自分なりの学習の足跡を残すことを大事にしてノートをまとめるように指導している。この日は、①自分の考えの根拠となる「キーワード」を抜き出す、②板書や友達の発言で大事だと思ったことを自分の言葉でメモしておく、の2点を助言して、授業の最後の5～6分間でノートをまとめさせた。

・ぼくもBに賛成です。「そこで」は、それまでの観察をもとにして新しい研究に入ったことを表しているからです。

文末表現、指示語や接続語、さらには、実験・観察→仮説→仮説の検証という論理展開のしかたなど、「イルカのねむり方」で

文章の書かれ方に目を向ける

四

文章の読解には、「何が」書いてあるか(内容の理解)と、「どのように」書いてあるか(表現のしかたの理解)の二つの側面がある。「何が」書かれているかを理解するには「どのように」書き進めているかに着目することが必要となる。

子どもたちは、文章構成のしかたや論理展開のしかたなど、「どのように」書かれているかを解析する話し合いを通して、「何が」書いてあるかを確かに読み取っていった。そして、「どのように」書かれているかを学んだことは、第三次で「ありの行列」の感想文を書く際の表現のしかた・方法として生かされていくこととなった。

作者・筆者からのメッセージ

「ゆうだち」(二年上)



もりやま みやこ
森山京

今回の教科書には、新たにたくさんのお話が掲載されました。そのなかから三つの教材をピックアップし、作者・筆者が作品にこめる思いをうかがえます。

東京都生まれ。児童作家。一九九六年「まねやのオチ旅なご道中」(講談社)で野間児童文芸賞、二〇〇九年「ハナと子屋のなごまたち」(理論社)で赤い鳥絵本賞など、数々の受賞歴をもつ。光村書局「黄色いバケツ」(二上)の作者でもある。

ゆうだち

おはなしを たのしもう

それが、きゆうに まつくらに なりました。
ひやりと した かぜが ふき、
ぼたぼたと あめが おちて きました。
「ゆうだちだ。」
くさはらに いた うさぎの こは、
おおいそぎで、木の したに かけこみました。

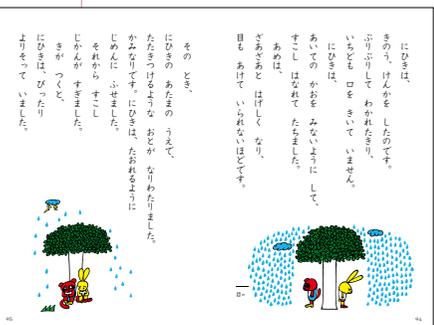
そこへ、
「ひゃあ、ずぶぬれだ。」
しぶきを ちらしながら、
たぬきの こが、とびこんで きました。
「やあ。」
と、いいかけて、うさぎの こは、
あわてて 口を おさえました。
たぬきの こも、
うさぎの こに きが つくと、
ぶいと よこを むきました。



93

92

けんかしていたうさぎの子とたぬきの子が、雨宿りをきっかけに仲直りするという、心温まる作品。挿絵は人気イラストレーター・100% ORANGE によるもの。



94



95

小さなお話 大きなひろがり

夏の午後、草原で遊んでいたうさぎの子は、とつぜん夕立に、あわてて近くの木かげへ逃げこみます。前後して友だちのたぬきの子もとびこんできますが、あいにく二ひきは、きのうけんか別れをしたばかり。たがいに距離をおいて立ちそっぽを向いての雨宿りになります。

雨はどしゃ降りになり、頭の上で雷がとどろくにおよんで、二ひきは生きた心地もしません。たおれるように地面に臥

友だちとともにあることの大切さに、あらためて気づいてほしいと思います。

ところで、このお話の終章は、「ゆうひが かつと てりつけ、せみの こえが きこえて きました」という一行でしめくくられています。

四百字詰原稿用紙二枚におさまるほどの、小さなドラマの幕切れです。一見あってもなくてもいいような文章に見られるかもしれませんが。ここには、きらきらまばゆい夕日と、いつせいに鳴きだした蟬の声。低学年の子どもでも容易に想像できるような、鮮烈な夏の色、光、そして音がこめられています。

作者があえてこの一行を書き添えたのは、日本の夏の季節感や自然の光景をやさしい日本語を通して、ぼつちりとも味わってもらえたらと思うからです。八百字ほどの短いお話ですが、幼い人の目と心に何かを残せたらと作者は願っています。

せ、どちらからともなくぴつたり寄り添ってしまいます。やがて雨が上がると、二ひきは手に手をとって、木かげから駆けだして行きました。というのが「ゆうだち」のあらすじです。

些細なことからは始まったけんか。双方とも仲なおりをしたい気持ちはあるものの、和解のきっかけがつかめないでいます。ひとこと「ごめんなさい」と言えば済むものを、どちらも頭を下げたくなくて、意地の張り合いが続いています。子どもならずとも、大人同士にも日常ままあるいさかひの光景です。

そんな矢先、雨宿りの木の下で偶然鉢合わせしてしまった二ひき。逃げもかくれもできない、のっぴきならない状況下で、なんとも気まずいだんまりの場面となりますが……。豪雨と雷という恐怖の連続体験が、幼い心をびったり結びつけました。終わり近く、からりと晴れ上がった空の下へ、嬉々として走り出すうさぎの子とたぬきの子。その姿に読者である子どもたちも、ほっと胸をなでおろすことでしょう。

日本の夏に多い激しい降雨や、耳をつんざくような落雷の響きは、たんにお話の中のできごとではありません。このうさぎの子やたぬきの子と似たような場面に、すでに身をもって出くわしている子どももいるでしょう。あるいはテレビの画面などで、自然の脅威や災害の凄まじさを目に焼きつけた子どももいるはず。いずれにせよ、子どもたちにとっては身近な事柄であるだけに、この一文に対しても強い関心と興味を寄せてくれると思います。

さらにここで考えてみたいのは、友だちの存在です。うさぎの子は木の下へ避難しますが、もしその場所へたぬきの子が現れなかったら、あとの話の展開はまったく違ったものになるでしょう。うさぎの子は一人ぼっちの心細さに耐えられなくて、泣いたり、ふるえたり、あるいは雨中にとびだして行ったのかもしれない。うさぎの子もたぬきの子も、そばに友だちがいてくれたから救われたということ、

「海をかつとばせ」(三年上)

やましたはるお
山下明生

東京都生まれ。児童文学作家。一九七七年『なんちゃんようたい』(小学館)で小学館文学賞。八六年『海のゴウモリ』(理論社)で赤い鳥文学賞など、数々の受賞歴をもつ。海を題材とした作品が多い。

海をかつとばせ

山下明生 作
杉浦範茂 挿絵

ワタルは、今年から野球チームに入った。今はまだベンチせんもんだが、夏の大会までには、なんとかしあいにしたいと思っている。ピンチヒッターでもいいから、なんとか出たい。
ワタルは、ひみつのどっくんをするにきめた。「毎朝、海辺までランニングして、はまべて百回すぶりをしよう。」
さいしょの日、ワタルは、バットをつかんでうちをどび出した。風の強い朝だった。走り始めると、耳元でかみの毛がヒュルヒュルと鳴った。

4 読んで、考えたことを発表しよう

どんな人物が登場するでしょう。どんな人物の行動、気持ちに着目して読みましょう。



●野球
●鳴る
●全
●年

64



この挿絵は、ワタルの気持ちや行動を表現している。夜の球場の静けさと、ワタルの集中力が感じられる。また、大きな月が、ワタルの夢や希望を象徴しているようにも見える。

野球の試合に出られないワタルは、浜辺で素振りをするという秘密の特訓を始める。ワタルがバットを振っていると、白い帽子に青い服を着た男の子があらわれ、練習を手伝ってくれると言う。すると、真っ白いボールが波の後ろから次々と飛んできて……。少年と海を描くファンタジー作品。杉浦範茂氏の挿絵が、作品をより鮮やかに彩る。

波に魅せられて

大好きな俳人・山口誓子に、

星恋ひのまたひととせのはじめの夜
という一句があります。それになぞらえれば私は、海恋ひのまたひととせの……というところでしょう。

高校を卒業して京都の大学にはいるまで、ずっと私は、瀬戸内海の島で暮らしました。一日たりとも、海を見ない日はありませんでした。そのせいか、島を離れると余計に海が恋しくなりました。寄せては返す海の波を見てみると、時の経つのを忘れます。何億年とつづく自然の無償の営みに、胸が熱くなるのです。

小学校時代は、先生のお話もそっこのけで、瀬戸内海を往來する船を眺めている子どもでした。遠さがる船にさわれ心がトリップして、ついつい空想の世界に迷い込むことがしばしばでした。

学校を出て出版社にはいると、仲間をさそってヨットを持ち、「てふてふ」号と名づけました。ヨットからの視線は水面すれすれで、波の高い日は、水平線がぎざぎざにとがって見えます。その情景をふくらませたのが、『うみぼうやと月うさぎ』というお話です。

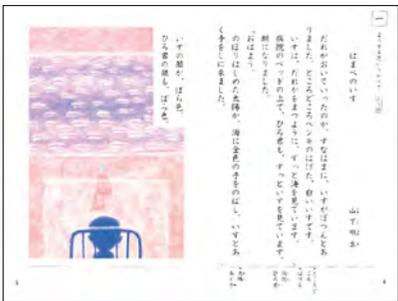
こうした海とのつきあいから、『カモメがくれた三かくの海』が生まれ、『はまべのいす』(※)が生まれ、『ヨットと花びら』が生まれ、『風の強い日』が生まれ、それぞれ国語教科書にも採択されました。海はまさに、私のお話づくりの先生です。

なかでも、いちばん海に親しんだのは、横浜から三浦半島に越してからの三十年間でした。ちよどダックスフントを飼いはじめたころで、犬といっしょに早朝の浜辺を散歩するのが日課でした。朝一番に浜におりて、犬と並んでまっさらな砂浜をあるく爽快さは、今も忘れられませんが、少年時代から、早起きしてバットの素振りをしていました。試合ではベンチウォーマーでしたが、ピンチヒッターでホームランを打つ場面をいつも夢見ていました。そのくせがぬけず、大人になって朝の散歩に出るときも、バットをかか

えていきました。

波というのは、浜にかけあがる寸前にきゆうに高まります。そのうねりのひとつひとつをかぞえながら、海に向かつてバットを振るのです。潮風としぶきを顔に受けながらつづけていると、波のうしろからひよいひよいと手がのびて、白球を投げてよこすような幻覚におそわれます。波の子どもの叫び声も聞こえてきます。波に命を感じるのには、そんなときです。

私の育った島では、沖の白波を白い馬に見たてていました。船で釣りをしているときなど、白波が立ち始めると、「白馬が飛びだしたけん、はあ帰ろうで」などというのです。私の『海のしろうま』は、



※「はまべのいす」
昭和61～平成3年度版 国語三年上
浜辺におかれたいすを病室から眺める少年。一日の海の表情と、浜辺にやってくる人々が、少年の目に生き生きと映る。(『光村ライブラリー第6巻』所収)

そんな思い出が書かせてくれた一冊です。外国でも白波のことを、ホワイトキャップとかホワイトホースと表現しているのを辞書で見つけて、うれしくなったものでした。それ以後私は、「うさぎのシッポ波」とか「ひよこの行列波」とか「鯨のジャンプ波」とか、勝手に名前をつけて、イメージを駆り立てるようになりました。

海が飽きないのは、時々刻々の波の表情が変わるせいです。さざ波から三角波から台風の怒涛まで、どんな波も私は好きです。いろんな波に魅せられて、わざわざハワイや南極まで出かけたこともあります。

いい海、いい波に出会うと、その感動をひとりですまっておくのが、申しわけない気持ちになります。せめて作品に取り込み、読者と感動を分かち合いたいと願うのです。こんどの『海をかつとばせ』も、朝焼けの浜辺で、波の子どもに合った感激を、自分の子ども時代と重ねながら、こんなお話に仕立てました。

孤高の俳人・尾崎放哉に、

こんな好い月を一人で見て寝る
という名句がありますが、私の場合、こんな好い海をひとりで見ると……という気分。そんな至福のひとつときを、絵本では杉浦範茂画伯が、見事に表現してくれています。

「生き物は円柱形」 (五年)



もとかわたつお
本川達雄

宮城県生まれ、東京工業大学教授、生物学者。専門はナマコやウニやヒトデなどの、海の動物について。主な著書に「サン」達雄の生物たち、「ソウの時間」スミの時間(以上、中央公論社)など。

生き物は円柱形

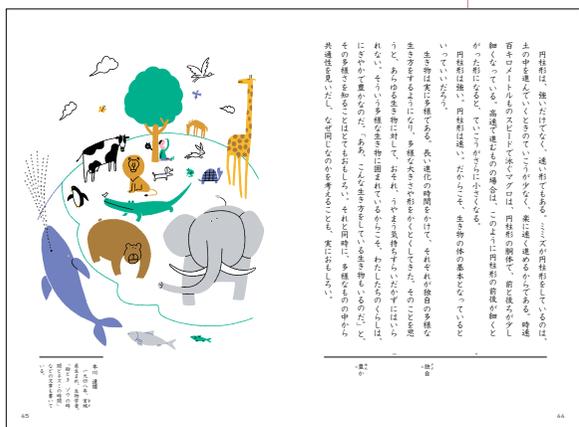
本川達雄文 平田利之絵

地球には、たくさん、さまざまな生き物がいる。生き物の、最も生物らしいところは、多様だということだ。しかし、よく見ると、その中に共通性がある。形のうえでわかりやすい共通性は、「生き物は円柱形だ」という点だ。君の指を見てごらん。丸くまっすぐにびたなだろ。(「つ」がついていたり、こぼこがあったりしていても、それをこぼこは円柱形と見なすことにしよう。このように見る、うても、首も円柱形だし、胴体もほぼ円柱形といえる。「腕をつ」の姿勢をすれば、体全体が円柱形だともできる。)

「ヒスやへ」は、円柱そのものだし、ウナギもそうだ。ネコやイヌのあしや胴体も、丸くて長い。つまり円柱形。植物だって円柱形だ。木の幹や枝。草のくきは円柱形。円柱形が集まって、全体が作られている。



地球上にいるさまざまな生き物は、形のうえでわかりやすい共通性がある。それは「円柱形」であるということ。なぜ、生き物は円柱形なのか、その謎をわかりやすく説明した文章。今回、教科書のために『生き物は円柱形』(日本放送出版協会)を、子どもたち向けに書き下ろした。



これは生物学に関する文章である。生物学は科学(理科)の一分野。理科の特徴は共通性の追求にある。

自然は一見多様だが、よく見て考えていくと、共通性が浮かび上がってくる。これまで一八〇万種もの生物が記載されており、種は形で分類するのが基本。

つまりそれほど生物の形も多様なのである。それでも共通性が発見できるのだ。

ただし共通性を見いだすには、それなりの近似をしなければならぬ。私たちに指はほぼ円柱形と言えるけれど、実際には関節の部分はふくれていて、きちんとした円柱形とは言い難い。魚は前後がスリムな円柱形だと本文中では言っているが、これはずいぶんと強引な議論である。実際の自然界には、真に円柱形の生物などいないのであって、そこを、片目をつぶって「いい加減に」見ていくと、皆、円柱形に見えてくるのである。

物理学や化学では、理想状態というモデルを考える。これは現実の自然界には存在しない「理想」のもの。科学は自然そのものではなく、自然の近似(モデル)をつくり上げていくのである。科学は厳密な学問だと思っている人が多いが、じつは、いいかげんに自然を眺めるからこそ科学が成り立つのである。詳細に観察し、その結果をちよつといい加減に大きくとらえてモデル化し、そのモデルを厳密に取り扱っていくのが科学のやり方。スタート地点がいい加減だから、その後の処理はきわめて厳密・厳格に行うのが科学なのである。この文章は科学のから

くりと、そのもつ怪しきとおもしろさを感じられるように書いた。

この文章は理科の中でも生物を扱っている。生物学は物理や化学とは、ちょっと違う。

子どもたちは、「どうして?」「なんで?」「なぜ?」を連発するものだ。知的興味の発露がこの「なぜ?」である。ところが物理も化学も「なぜ?」には答えない。

「なぜ物は下に落ちるの?」「万有引力があるからさ。」「なぜ万有引力があるの?」「なぜだか知らないけどあるんだよ。」「なぜ?つ?つ? 落ちると何かいいことがあるの?」

「落ちることに意味などないし、わからないものはわかんないのっ! でもね、どんなふうに力がかかって、どんなふうに落ちて行くかはわかる。それを教えてあげよう。力は質量に比例して距離の二乗に反比例するんだ。数式できっちり書き表せるんだよ。だから算数を勉強しないとね。」

物理学では「なぜwhy?」という問いには答えない。なぜかは神様がそうし

たとしか言いようがない。そうになっていることに意味があるかどうかも答ええない。そのかわり「どんなふうにhow?」という問いについて詳細に答えていく。つまり、子どもたちの「なぜ?」という素朴な疑問に理科は答えられないのだ。存在するものの意味についても、何ことも言えない。子どもたちの真摯で素朴な疑問を、はぐらかさざるを得ないのが理科を教えていてつらいところだ。

物理や化学分野ではこうなのだが、生物は違う。「なぜチョウに羽があるの?」「なぜ羽はひらべつたいの?」という「なぜ?」に答えられるのである。

生物は長い進化の歴史を通して、その環境によく適した形をもつものが生き残ってきた。生物を見て、「なぜ?」こうなっていると何かいいことがあるの?」という疑問をもち、それに答えようとする知的努力が、無駄にならないのが生物学なのである。

この文章を通して、自然をよく見て考えることの楽しさ、生物のたくみさ、そして論理的説明文の必要性を伝えていただけとありがたい。

学年に応じてポイントを絞ったノート指導を!

指導時間の問題を解決する方法として大切なことが、学年に応じて指導のポイントを絞ることです。また、漢字ノートの活用は、学習が系統立てられて効果的です。こまめに子どもたちの漢字ノートをチェックし、励ましてやりながら、学年に応じたポイントにかかわる指導だけを重点的にするとよいでしょう。

いつ、どこで何を中心に教えたらいいの?

漢字指導を楽しく! 継続的に!

元新宿区立西戸山小学校教諭
安田恭子

低学年

星 セイ ⑨
ほし

ことばあつめ
ながれ星、一ばん星、星空、星ぞ、金星、火星

文つくり
ながれ星を見ました。
一ばん星を見つけました。

れんしゅう
星 星 星 星

思ったこと・気づき
日と生の字でできている。

読みと筆順、そして漢字に興味をもたせる**気づき**が大事です。例えば「星」の字の指導では、まともりや気をつける筆順に従って、赤・黄・青で順番に色分けして書きます。読みを確かめ、少々の言葉集めをしたら、後は個別学習にします。項目はあらかじめ約束しておきます。

中学年

菜 サイ ⑩
訓 な 部首 艹 菜 くさかんむり

筆順
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

ポイント
菜 菜 菜 菜

書きちがい
菜 菜 菜 菜

使われる言葉
菜の花、野菜

練習
菜の花 菜の花 野菜 野菜

さらに**部首**が加わり、読みも、音読み・訓読みを明確に区別します。さらに陥りやすい書き違いや、文字のポイント等を自分で**チェックポイント**として書かせるようにします。

高学年

筋 キン ⑪
訓 すじ 部首 竹 (たけかんむり)

筆順
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

チェックポイント
筋 筋 筋 筋

意味
①からだのすじ
②細長いもの。細長く続くもの。
③ものの道理
④血統
⑤話のあらまし

成り立ち
「竹」と「筋(すじ)ばったあばら」を組み合わせさせた字。竹のすじ、広く「すじ」を表す。

さらに漢字の**意味**や**成り立ち**が加わります。ただ、内容がふくらむ一方では負担が多くなりますので、文作りなどは止めておきましょう。



Q せっかく導入の準備を工夫して、説明文の学習に入ったのに、ふたを開けてみたら新出漢字のオンパレードでびっくり。漢字指導に追われてなかなか自身の学習には入れないし、指導時間は足りなくなると…なんてことがあったな。うまく指導時間がとれないかな。

Q 私は、よく低学年の担任になるんだけど、小さい人はちょっとでも急いで字を書くと、「先生、そこはねません」とか「あ、はびつていない」とか…。正しい字形は大切なんだけど、どこまで教えてどこまで許容するか難しいのよね。

A 確かに、担当学年にもよりますが、一文字一文字の漢字で、筆順、画数を教え、空書きしたり、筆順を一画ずつ増やしたりしながら書かせたり、音読み訓読みを教えた後、さらに言葉集め、文作り、と手順を追って指導を進めていきますと、指導に莫大な時間と手間がかかってしまい、読むことや書くこととの指導時間が不足してしまつ等の声をよく聞きます。かといって、漢字指導をしないわけにもいきません…。

今回は、この時間の問題を解決しつつ、楽しく継続的に行える漢字指導を考えてみました。

漢字指導の基本は？

1 読めるように

漢字指導の基本は読めることです。「七夕」や「二十日」が「たなばた」「はつか」と読めたときの嬉しさは格別です。最初はルビ付でもよいので、読ませることを優先しましょう。

2 書けるように

読めたら、次には書けるようにしましょう。黒板の記入、掲示物の作成など、何でも教師が書いたり作成したりするのではなく、人目につく所に書く等の体験をできるだけ多くさせたいものです。

3 使えるように

いちばん望まれるのが、この「使える」ということです。そして、子どもたちがつまずくのもここです。ときには、子どもに漢字ミニテストなどの問題をつくって出題させるなど、受け身ではなく主体的に学ぶ場をつくるとよいでしょう。

4 遊べるように 楽しめるように

「山」という漢字をたくさん書いて山の絵にしたり、「雪」の字を散りばめて降ってくる雪の絵にしたりして遊びましょう。楽しみとして新しい漢字づくりをしたり、その意味づけをしたり、漢字と仲良くなる工夫をしましょう。

漢字指導を進めるうえでいちばん大切なことは、指導する先生自身が「漢字」そのものの素晴らしさをきちんと認識していることです。その素晴らしさとは、漢字はその一文字が意味を表すという点です。

「あさはやくおきたけどあたまがいなくてがっこうをやすんだ」という表記と、「朝早く起きたけど頭が痛くて学校を休んだ」という表記を比べると、どちらが内容を素早く理解できるかは一目瞭然です。ですから、そのよさを、漢字学習が大好きで比較的ゆとりのある低学年で丁寧に指導することが大切です。さらにたくさん漢字にまつわるエピソードを話すことで、先生方の工夫も望まれます。



漢字に 心をときめかせる子

漢字の学習指導で思い出すことがある。それは、一年生の子が初めて漢字を覚えた日の感動を綴って下さったお母さんの言葉である。その日、その子は母親を前にして、学校で習ったように、「ここは、まっすぐに書く。ここは長くしてはだめ」と得意になって教えたというのである。「この子は、漢字の面白さの鍵を手にし、ときめいている」と書かれていた。印象に残る言葉であった。卒業を前にして、漢字学習の発展として、自分を励ます言葉探しをさせたことがあった。辞書で熟語を調べながら、「漢字を見ていると元気が出てくる」とつぶやく子がいた。その子のノートには「勇気・克己・奮起・努力」等の熟語が並んでいた。新出漢字を初めて覚えたときの顔、漢字テストで合格点を取ったときの顔、筆順に気をつけながら書いている真剣な顔、そして、漢和辞典で調べた語句を教え合っているときの得

きれい・関心・繰り返しの「3K」

よしなが こうし
京都女子大学教授 吉永幸司

漢字指導の「3K」

意図的な顔。漢字との出会いは、子どもへの心をときめかせ、学習への意欲を高める。

新出漢字だけの指導やテストや書き取りを課題とするだけでは漢字の力は育たない。漢字への魅力を大事にする指導の工夫が必要である。きれい・関心・繰り返しの3つの「K」で漢字指導を考えてみたい。

① きれいに書かせるの「K」

漢字をノートに書かせるとき、きれいに書くよう指導する。文字を丁寧に書くことで、落ち着いて学習する習慣が付き、考える力が育つ。筆順やはね、止め等を丁寧に書くことと整った文字になる。丁寧に漢字を書いて満足そうにしている子に、「きれいに書いていますよ」と、声をかける。この瞬間の快さがうれしい。

② 関心を高めるの「K」

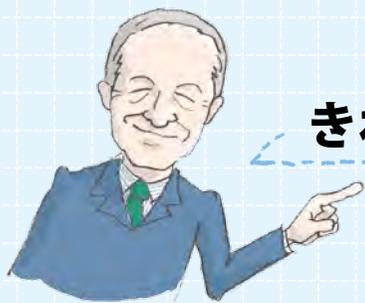
漢字テストが合格点であるからといって、漢字の力が十分であるとはいえない。漢字は使えることまで欲張ってみたい。

覚えた漢字を使う、忘れた漢字は辞書で調べるように習慣づけるようになる。漢字に親しみをもつようになる。そのためには、漢字の成り立ちを理解させる。「へん」や「くり」、象形文字や会意文字など新しい漢字の知識を教える。珍しい漢字がおもしろいと言いつける仲間がいる。漢字に対する幅広い情報を得られる場。そのような国語教室であってほしい。

③ 繰り返し漢字にふれさせるの「K」

漢字指導は、繰り返して漢字にふれさせることである。

私の実践で効果があったのは、教科書の巻末にある漢字一覧表に添えている熟語を毎日授業の初めに音読させたことである。教科書や漢字辞典は、工夫次第で効果を上げることができる。漢字の宝庫だから。





一年 (p.6~7)

▶一年では、「空書き」をイメージしやすいよう、大空に文字が浮かぶイラストを入れている。



三年 (p.16)



三年 (p.11)

◀初めて毛筆で書けるようになるまで、筆によるリズムを体得するため、手立てを見立てた空書きを提示。

体験を通じた学び

体全体を使って空に文字を書きながら、書字の感覚をとらえる「空書き」。その場面を、教科書に多く位置づけました。体を大きく動かすことで、頭を働かせます。

新版教科書のご案内

光村図書の書写教科書が生まれ変わりました。「たくさん子どもたちに、文字を書く楽しさを知ってほしい」とそんな願いをこめた、今までにない新しい教科書。その特長をご紹介します。

新しい教科書の4つのポイントをいっしょに見ていこう！



ピッチちゃん

新しい教科書は、先生も子どもも楽しんで使えるよう、さまざまな工夫がされているんだ。



ベンちゃん

イラスト：荒井良二

ポイント1

意欲をかき立てる工夫がいっぱい

試してわかる点画シール

新しい学習方法として、点画を使った方法を取り入れました。三年生は、「点画シール」で、基本的な点画の名称や形をしっかりと理解できるようにしました。楽しんだり考えたりしながら、基本点画の学習をすることができます。



三年「点画シール」



楽しみながら学習ができそうだね。



視覚的に理解させる

学習要素をイラストでイメージ化することによって、子どもの理解を助けながら、楽しい書写学習を実現させます。

筆の動きのイメージがつかめるよう、ペンちゃんが、全身の動きで伝える。



三年 (p.14)

穂先の位置がとらえやすいよう、イラストで表現。



よい例(○)と気をつけたい例(△)を並べて配置し、相違点が考えられるよう工夫している。

身の回りのものを使って作ろう

身の回りのものを利用して、筆記具を決め、文字の大きさを配列を工夫して書こう。

活用するもの
→ 筆記具を選ぼう。

文字の大きさや配列に気をつけて書こう。

五年 「身の回りのものを使って作ろう」 (p.16~17)

一年間の学習内容を、最初に見通すことができるね。

実る つくみ

成原 在 市 九 月 口 田 道 店 林 雲

うぐいす

六年 「書写パーク」

ポイント 2
学習の見通しがもてる
「書写パーク」

四年生以上の各学年の冒頭に「書写パーク」を設定。これまで学習してきたこと、これから学習することが一目でわかります。学年が上がるにしたがって学習要素が追加され、書写の世界が広がります。

ポイント 4
日々の学習や生活に
役立つ書写力

習得した書写力を日常で行かせる作例を数多く示しました。

ポイント 3
ひと目でわかる
学習ステップ

虫

田 口

貝 国 中 足

虫足音 回転

四年 (p.8~9)

学習の進め方がはつきりとわかる構成です。「導入」から「日常化」までの学習ステップがわかりやすいので、実践に沿った無理のない学習が展開できます。

- 1 導入** 文字の決まりを見つかり考えたりする。
- 2 理解** 文字の決まりをしつかりおさえる。
- 3 確認** 学習したことを大きく書いて確認する。
- 4 応用** 毛筆で確認したことを生かして硬筆で書く。他字へつなげる。
- 5 自己評価** 学習を振り返り、基礎・基本の定着を図る。
- 6 日常化** (ポイント4を参照)

社会 ユニセフについて

生活 わたしたちの町をしようかしよう

国語 わくわく☆漢字教室

六年 「自由研究をまとめよう」
社会科のユニセフの学習に関連した作例を提示。書写で学習した内容を生かすための方法も合わせて示している。

二年 「わたしたちの町をしようかしよう」
漢字の部分の書き方を書写の観点からおさえる項目を設けるなど、国語科との関連を図る。

五年 「わくわく☆漢字教室」
漢字の部分の書き方を書写の観点からおさえる項目を設けるなど、国語との関連を図る。

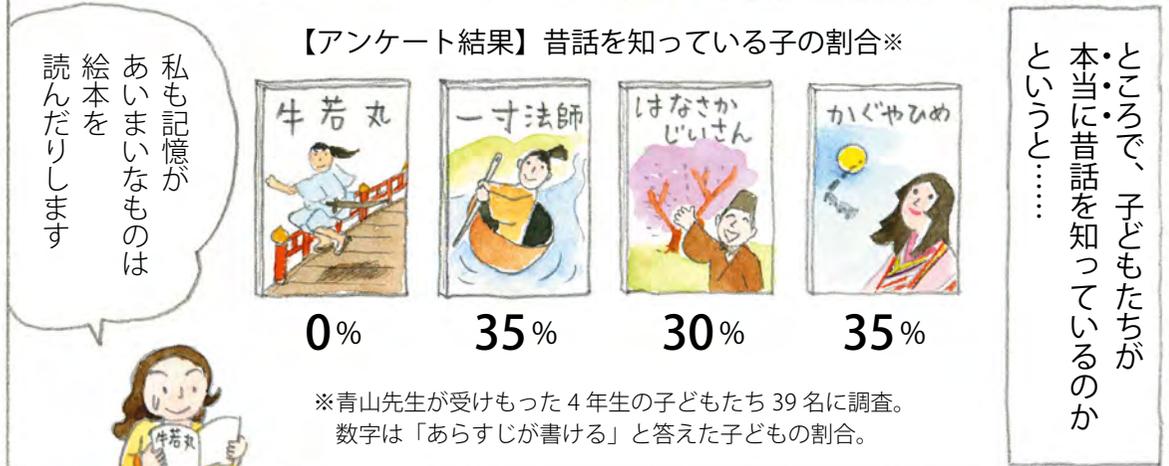
日々の学習に生かせるよう、他教科との関連ももたせています。

新版教科書で、子どもたちといっしょに書写を楽しみましょう！

新しくなった光村の書写教科書は、いかがですか？



作・画/吉永直子



次に、プリントを見ながら原文を聞きます。

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

千年前の文章だよ。知っている言葉に線を引いてみよう

いま
むかし
さぬき
たけ
とり

20個、線が引けたよ

Q2 かぐやひめは 結こんしましたか。

しました!

してよ

そんな気もしてきた

結こんしてりこんした!

子どもは「知っている言葉だけをキャッチする力」に長けているんですよ

日常生活でも知らない言葉がたくさんあるから知っている言葉だけを拾うのが得意なんです

「さぬき」を本当に知っているの? 「さぬきうどん」のさぬきでしょ

私たちの記憶もあいまいかも……

子どもたちは記憶のあいまいに気づきます

死んじやった

月に連れ去られた

火星にハネムーン♡

Q3 物語の結末は?

家や図書館で『竹取物語』や『かぐや姫』の本を見つけて次の授業に持ってきてね

こうして昔読んだ『かぐや姫』を読み返すことにつながります。

人数は書いてないよ

この本では5人だよ

おえらいさんってみかどのこと?

たけとり
かたり
子ども文学全集
ふかいばなし

子どもが知っている言葉が多く、リズムのいい『竹取物語』の冒頭部ですから、自然に音読につながられます。

さんずんばかりなるひと
いとうつくしうていたり

古典って楽しそうですね

そうなんです。次回もまた具体的な授業をご紹介します

つづく

家や図書館で『竹取物語』や『かぐや姫』の本を見つけて次の授業に持ってきてね

こうして昔読んだ『かぐや姫』を読み返すことにつながります。

人数は書いてないよ

この本では5人だよ

おえらいさんってみかどのこと?

たけとり
かたり
子ども文学全集
ふかいばなし

＊光村の提示型デジタル教材シリーズ＊ 小学校版

わくわく 英語タイム

新学習指導要領対応

初めての英語活動を強力にサポート!

デジタルテレビ・電子黒板に最適!

英語活動の導入に最適

高学年の知的好奇心を刺激

ネイティブの音声を豊富に収録

指導用字幕ガイド付き

クリックだけのカンタン操作

英語ノートとの併用が効果的



What color do we get?

What color do we get?

文部科学省「英語ノート」対応

わくわく 英語タイム<1>〔英語ノート1〕対応版

わくわく 英語タイム<2>〔英語ノート2〕対応版

監修 昭和女子大学附属昭和小学校 副校長 小泉清裕

価格(学校フリーライセンス)
各 26,250 円(本体価格各 25,000 円)®



好評発売中! 光村の提示型デジタル教材シリーズ

- 光村「国語デジタル教科書」小学校版 1～6年生用 各 52,500 円(税込)
- わくわく漢字伝(小学校版)低・中・高学年用 各 26,250 円(税込)
- 光村「国語デジタル教科書」中学校版 「話す・聞く」編 古典編 各 52,500 円(税込)
- わくわく古典教室(小学校版)低・中・高学年用 各 26,250 円(税込)

体験版配布中!

好評発売中!

詳しくはこちらまで!
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/>

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
光村図書出版株式会社 TEL:03-3493-5741(お客様窓口) FAX:03-3493-5483
E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

▶ <http://www.mitsumura-tosho.co.jp/23skyokasho>

国語のトップページ



新版のポイントが一目でわかる構成。それぞれのボタンから、さらに詳しい内容をご覧いただけます。

新版教科書に対応した年間指導計画・評価計画資料など、ダウンロードしてすぐにご活用いただける資料も豊富。

これさえ見れば、新版教科書が丸ごとわかります! 映像とナレーションで内容と魅力を3分でご紹介。

光村図書ホームページに
「平成23年度版
小学校教科書のご案内」の
特設サイトがオープン!

書写のトップページ



光村図書が発行している「国語」「書写」「社会」「せいかつ」の平成23年度新版小学校教科書の内容を教科ごとにご紹介するサイトを開設しています。

(4月下旬公開予定)

動画を使って3分で教科書の魅力をご紹介するコンテンツなど、ウェブならではの特色を生かしてわかりやすく解説しています。ぜひご覧ください。

広報部便り

前号に続き、平成23年度版教科書をご紹介いたしました。鼎談のなかでは、編集委員の先生方全員が「私たちの思いをしっかりと実現できました」と力強くおっしゃっていたのが印象的でした。

新しい教科書は、阿部昇先生のお言葉をお借りすれば、「しかけ」にあふれた教科書。子どもたちの国語力を伸ばすために、

さまざまな工夫がされています。弊社ホームページからその内容をご覧ください。

また、今号より新連載「古典って楽しい!」がスタートしました。お読みになったご感想をぜひ広報部までお寄せください。次号では「枕草子」の授業をご紹介する予定です。どうぞお楽しみに。